



桐蔭キャリア通信 第12号

Toin Career News



和歌山県立桐蔭中学校・桐蔭高等学校 平成26年10月29日発行

キャリア教育 ちょこっと研修 その27

『キャリア教育の指導計画、指導内容、評価規準、評価方法の研究に向けて』
～生徒のキャリア発達の特徴は?～高校編
前回に続いて高等学校段階におけるキャリア発達の特徴の例について紹介します。

<高等学校段階におけるキャリア発達の特徴の例>

入学から在学期間半ばごろまで	在学期間半ばごろから卒業を間近にする頃まで
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する。 ・新たな環境の中で自らの役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ・学習活動を通して自らの勤労観、職業観について価値観形成を図る。 ・様々な情報を収集し、それに基づいて自分の将来について暫定的に決定する。 ・進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、検討する。 ・将来設計を立案し、今取り組むべき学習や活動を理解し実行に移す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の価値観や個性を理解し、自分との差異を認めつつ受容する。 ・卒業後の進路について多面的多角的に情報を集め、検討する。 ・自分の能力・適性を的確に判断し、自らの将来設計に基づいて、高校卒業後の進路について決定する。 ・進路実現のために今取り組むべき課題は何かを考え、実行に移す。 ・理想と現実との葛藤や経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身につける。

(文部科学省「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き」平成18年)

このようなキャリア発達段階にある高校生期においては、「自己理解の深化と自己受容」「選択基準としての勤労観、職業観の確立」「将来設計の立案と社会的移行の準備」「進路の現実吟味と試行的参加」が重要な課題となる。各高等学校においては、これらを基盤としつつ、生徒や地域の実態を踏まえ、学校のこれまでの取組などを生かしながら、「基礎的・汎用的能力」に示される4つの能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」)それぞれについて具体的な目標を設定していくことが必要である。(文部科学省「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」平成23年 第5章第3節)

このように中学校と高等学校の発達段階について紹介してきましたが、各校での重要な課題について比較すると以下の表のようになります。この違いを意識することが、中高一貫校のキャリア教育を研究していく上で大切な気がします。

	中学校	高等学校
自己理解	肯定的自己理解と自己有用感の獲得	自己理解の深化と自己受容
勤労観、職業観	興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成	選択基準としての勤労観、職業観の確立
将来設計	進路計画の立案と暫定的選択	将来設計の立案と社会的移行の準備
生き方・進路	生き方や進路に関する現実的探索	進路の現実吟味と試行的参加

(文責 嶋田暢也)